

南沢左俣

一九八二年八月一三日

地獄沢および黒滝沢の様子から、この南沢もたいしたことはなからうと思ひ、今日は少し息抜きしようとしてここを選んだ。

南沢に入るとまもなく、沢は明るい樹林帯を離れて、林の中を流れるようになる。五匹の滝が出てきた。

右岸を直登する。ホールドが豊富なので、いろんなルートがとれそうだが、少し進むと、今度は三匹のハング滝。滝の右端にルートを求め、流木を利用して越える。この先はナメとなった。黒滝沢や地獄沢とはかなり様相が異なるようだ。

九時三〇分、右俣出合。左俣に進む。小滝が連なっており、劇的な面白さはないが、退屈することもない。やがて、フトン籠に石を詰めたものを積み重ねただけの、簡単な砂防

赤川左支流

一九八五年一月二六日

山々の木々の葉もこの時期になると色あでやかになり、反面水の冷たさは身にこたえてくる。本日の調査をもって一九八五年の福島登高会の

ダムが出てくる。右岸を見ると、林道が見える。どうも営林署が盛んに伐採を進めている地域のような。大岩を越えたあたりでは、もう沖根山林道がすぐそばを走っていた。一〇時ちょうどに沢から上がる。

(記・一) ㄨ

「タイム」 遡行開始(八三三五)↓黒

滝沢出合(八四四五)↓右俣出合

(九三三〇)↓沢終了(一〇〇〇〇)

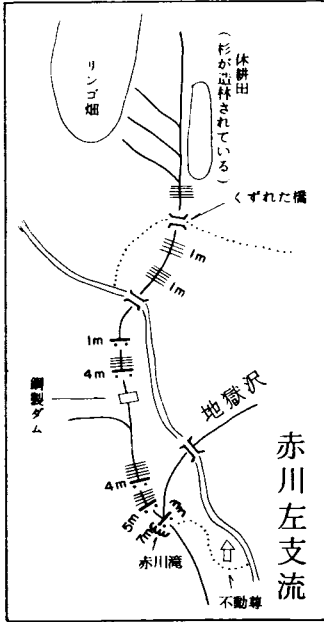
沢登りは終了である。

赤川左支流は、赤川滝が起点となる。市道より滝まで道がついており、手前には神社がある。

滝口まで降りていき、若林さんが写真におさめて、再度市道に戻る。遊行は赤川滝の上から開始。

滝口からはナメの連続であった。このあと沢は市道に並行している。周囲は杉の造林地で明るい。途中、四ツ目の滝があった。

市道と分かれた途端、沢幅は一・五m。そしてものすごいヤブである。ヤブとの戦いを始めて二〇分、沢の流れも細くなってきたので終了とする。右岸の支沢を登っていくと



赤川左支流

リンゴ畑に飛び出した。

(記・二四二)

大作西沢(仮称)

一九八三年九月一七日

「タイム」 赤川滝(二四〇〇) ↓ 終了(二四四五)

(記・二四三)

九時〇五分、遊行開始。赤川に一

〇目の滝をかけて合流している支流

であるし、その上しばらくはナメが続いているのを見れば、先にも何か

一つくらいは見所があるのではない

かとあわい期待を

いだいたのだが、

結局何も出てこなかった。

九時二五分、沢が細い溝状になり、

ブッシュもかぶさってきたので遊行

終了とする。(記・

「タイム」 出合(九・〇五) ↓ 遊行終

了(九・二五)

